

O1-001

当院における2週間健診の導入とその効果

古屋 彩夏¹、蒲澤 直子²、塩崎 純子¹、
柳澤 敦広¹、奥山 伸彦¹、北條 智³

¹JR 東京総合病院 小児科

²JR 東京総合病院 看護部

³JR 東京総合病院 産婦人科

【背景】

厚生労働省は「産後うつ」を予防するため2017年度から健診費用の助成を開始した。当院では2017年3月より希望者に対し無料で2週間健診を行っている。当院の扱う出産はほとんどが合併症のない正期産であり、当院における2週間健診は、児の状態把握や改善よりも母親の不安の軽減という目的のほうが大きいの。一方で、人員などの医療資源が限られる中、より効果的な2週間健診の実施方法の検討が課題である。

【目的と方法】

健診では助産師が育児上の疑問や不安にこたえ、児の体重を測定し、必要があれば小児科医の診察を受けるよう指導している。2017年8月より2018年2月において、2週間健診と1か月健診の両方を受診した母親（2週間群：n=49）に対して不安尺度である新版STAIを用いて特性不安（普段から不安を感じやすい素因）および状態不安（その時点の状況による不安）の程度を評価した。また1か月健診のみを受診した母親（1か月群：n=80）にも同様の評価を行い比較検討した。

【結果】

両群間で、児の在胎週数・出生体重・性別や母体年齢には差がなかったが、2週間群では、初産婦が有意に多く、特性不安が有意に高かった（ 42.2 ± 7.8 vs 38.0 ± 8.9 , $p=0.0028$ ）。2週間群では、受診時の状態不安が1か月群よりも有意に高かったが（ 44.1 ± 8.3 vs 41.0 ± 9.9 , $p=0.028$ ）、2週間健診を受診することにより1か月健診の時点では有意に低下し（ 41.5 ± 7.1 , $p=0.013$ ）、1か月群と同じレベルとなっていた。2週間群の中で解析すると、初産婦では、2週と4週で状態不安が有意に低下していたが（ 45.6 ± 8.6 vs 42.2 ± 7.3 , $p=0.004$ ）、経産婦ではこの不安軽減効果が認められなかった。2週間健診を受診していない1か月群の中でも、状態不安は経産婦よりも初産婦の方が有意に高かったことから（ $p=0.0082$ ）、当院における産後不安に対して最も影響するのは出産回数であることがうかがわれた。

【考察】

当院における2週間健診によって、特に初産婦の不安軽減に有意な効果が認められた。今後は、初産婦に焦点を絞った2週間健診受診の勧奨や、それに合わせた健診内容の検討が重要であると考えられた。

O1-002

病児保育施設から自動車による15、30および60分到達圏内に居住する乳幼児の比率について

江原 朗

広島国際大学医療経営学部 医療経営学科

【背景】

乳幼児は感染症にかかることも多く、1か月に2回前後医療機関を受診している。しかし、軽症であっても発熱等の症状を来せば、幼稚園や保育園は登園を認めていない。したがって、子どもの保育サービスを受けている一部の世帯では、子どもが発熱等の症状をきたすと病児保育サービスを受ける必要が生じる。しかし、各世帯が利用できる病児保育サービスの有無に関しては全国的な解析が乏しい。

【目的】

病児保育施設から自動車による15、30および60分到達圏内に居住する乳幼児の比率を地方別に明らかにする。

【方法】

病児保育施設のリストは平成27年3月31日現在地を厚生労働省から入手した。このリストをもとに、所在市町村および病児保育施設のホームページから各病児保育施設所在地を引用した。そして、所在地から地理情報システム（GIS）を用いて各施設の緯度経度を求めた。さらに、乳幼児の居住地は全国を約20万に区分した街区を用い、街区の緯度経度および乳幼児人口（0から4歳）は平成22年国勢調査から引用した。各病児保育施設から自動車により15、30および60分以内に到達できる圏域は、カーナビゲーションに用いられている全国の道路網の解析システムを用いて計算した。圏域内に居住する乳幼児に比率を求め、地方間で比較した。

【結果】

全国的に見ると、15分圏内に59.7%、30分圏内に84.5%、60分圏内に94.0%の乳幼児が居住していた。しかし、地方間の格差が激しく、15分圏内では関東66.9%、近畿72.0%であったのに対し、北海道8.5%、東北32.8%であった。30分圏内では関東92.5%、近畿92.1%であったのに対し、北海道34.4%、東北60.3%であった。

【結論】

感染症に罹患する機会の多い乳幼児に対しては、健常時の保育だけでなく、感染症等の罹患時に保育を実施するサービスが必須である。国税の投入により病児保育サービスを充実させるのであれば、全国各地においてアクセスの格差があってはならない。